

平成 2 1 年 第 2 回
箕面市教育委員会定例会会議録

箕面市教育委員会

平成 2 1 第 2 回 箕面市教育委員会定例会会議録

1 . 日 時 平成 2 1 年 2 月 1 0 日 (火) 午後 3 時

1 . 場 所 箕面市役所 本館 3 階 委員会室

1 . 出席委員	委 員 長	小 川 修 一 君
	委 員 長 職 務 代 理 者	白 石 裕 君
	委 員	坂 口 一 美 君
	委 員	福 井 聖 子 君

1 . 付議案件説明者

教 育 長 職 務 代 理 者	重 松 剛 君
教 育 次 長	森 井 國 央 君
教 育 推 進 部 長	埋 橋 伸 夫 君
子 ど も 部 長	井 上 隆 志 君
生 涯 学 習 部 長	
教 育 推 進 部 総 務 次 長	稲 野 公 一 君
兼 次 長 (教 育 政 策 ・ 学 校 管 理 担 当)	
兼 教 育 政 策 課 長	
教 育 推 進 部 次 長	若 狭 周 二 君
(教 育 指 導 ・ 教 職 員 担 当)	
子 ど も 部 総 務 次 長 兼 次 長	中 村 信 隆 君
兼 子 ど も 家 庭 相 談 室 長	
兼 子 ど も 家 庭 相 談 室 課 長	
生 涯 学 習 部 総 務 次 長 兼 次 長	黒 田 正 記 君
学 校 管 理 課 長	岩 永 幸 博 君
学 校 教 育 課 長	中 村 香 君
教 職 員 課 長	松 山 隆 志 君
人 権 教 育 課 長	笹 川 実 千 代 君
教 育 セ ン タ ー 所 長	加 賀 康 弘 君
子 ど も 政 策 課 長	森 本 博 一 君
子 ど も 支 援 課 長	水 野 賢 治 君
幼 児 育 成 課 長	千 葉 亜 紀 子 君
子 ど も 部 専 任 参 事	
(債 権 担 当)	荒 木 啓 雄 君
子 ど も 家 庭 相 談 室 専 任 参 事	小 川 衛 子 君
生 涯 学 習 課 長	小 西 敏 広 君
生 涯 学 習 課 参 事	河 原 弘 明 君
生 涯 学 習 部 専 任 参 事	
(生 涯 学 習 事 業 担 当)	大 浜 訓 子 君
中 央 図 書 館 長	江 口 寛 君
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	吉 田 卓 司 君

1 . 出席事務局職員

教 育 政 策 課 担 当 主 査	高 橋 勝 代 君
教 育 政 策 課	森 貴 美 君

1. 議事日程

- 日程第 1 会議録署名委員の指定
- 日程第 2 箕面市奨学生選考委員会委員任命の件
- 日程第 3 箕面市教育委員会事務局職員の人事発令の件
- 日程第 4 箕面市教育委員会会議録の承認を求める件
- 日程第 5 教育長職務代理者の報告

(午後3時開会)

委員長(小川修一君) : ただ今から、平成21年第2回箕面市教育委員会定例会を開催します。議事に先立ちまして、事務局に「諸般の報告」を求めます。

(事務局報告)

委員長(小川修一君) : ただ今の報告のとおり、本日の出席委員は4名で、本委員会は成立しました。

委員長(小川修一君) : それでは、日程第1、「会議録署名委員の指定」を行います。本日の会議録署名委員は、箕面市教育委員会会議規則第4条第2項の規定に基づき、委員長において白石委員を指定します。

委員長(小川修一君) : 次に日程第2、議案第4号「箕面市奨学生選考委員会委員任命の件」を議題とします。議案の朗読を省略し、提案理由を教育推進部学校管理課長に求めます。

- 学校管理課長(岩永幸博君) : 本件は、箕面市奨学資金条例に基づく奨学生を選考するため設置している箕面市奨学生選考委員会の委員で、市職員の森田雅彦氏が、去る平成20年11月20日付けで本市を退職したため、欠員が生じたことに伴い、その後任として、市職員の森井國央氏を本日付けで任命することを提案するものです。

委員長(小川修一君) : 制度が変わりましたが、それ以後、応募等の状況はどうですか。

- 学校管理課長(岩永幸博君) : この2月19日に、入学準備金について、選考委員会を開催する予定です。平成21年度から制度変更となりますので、この20年度については、特に変更はありません。

委員長(小川修一君) : 応募状況としては、増加しているかなどは、いかがですか。

- 学校管理課長(岩永幸博君) : 今年度の応募状況については、横ばい

です。平成 21 年度からの制度変更による状況はまだわかりません。

委員長（小川修一君）： せっかくの制度ですから、これを活用する方が増えるのがいいと思うのですが、その状況を把握した上で、この制度が生きてくるような方策を考えるべきだと思いますが。

- 教育推進部総務次長（稲野公一君）： たぶん、委員長がおっしゃっているのは、それまでは給与として、高校生の奨学金では、毎月公立で 5 千円、私立で 1 万円、額としては少ない方ですが、すべて差し上げていました。それが、平成 15 年度からは、貸与に切り替えましたので、その時点で 3 分の 1 ぐらいに応募される方が減りました。その後、今の厳しい経済情勢なども反映されていると思うのですが、若干戻り、20 名から 15 名ほどで、推移して、横ばい状態です。箕面市の場合は、大阪府や日本学生支援機構（かつての日本育英会）など、他の奨学金制度も併せて受けることができますので、まずは、そちらをご利用になる方が多いようです。額が少ないこともあり、箕面市の制度では、わざわざ書類を作って、応募する魅力が少ないかとも思いますが、今は、そのような状況です。学費で困っている方がおられますので、できるだけ多くの方を支援していくため、PR していきたいと思います。

- 委員長（小川修一君）： 他にないようですので、議案第 4 号を採決します。本件を原案どおり可決することに異議はありませんか。

（“異議なし”の声あり）

- 委員長（小川修一君）： 異議なしと認めます。よって、本件は、原案どおり可決されました。

- 委員長（小川修一君）： 次に日程第 3、報告第 3 号「箕面市教育委員会事務局職員の人事発令の件」を議題とします。議案の朗読を省略し、提案理由を教育推進部教育政策課長に求めます。

教育政策課長（稲野公一君）： 本件は、分限休職処分 1 名、異動 1 名をそれぞれ発令する必要が生じましたが、委員長において、教育委員会会議を招集する時間的余裕がないことが明らかであると認められたため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項並びに箕面市教育委員会教育長に対する事務委任規則第 3 条第 1 項及び箕面市教育委員会事務局組織及び事務分掌規則第 6 条第 1 号の規定により、教育長職務代理者が臨時に代理しましたので、箕面市教育委員会教育長に対する事務委任規則第 3 条第 2 項の規定により報告するものです。

委員長（小川修一君）： この件に関して、何か質問、意見はありませんか

んか。

- 委員長(小川修一君) : ないようですので、報告第3号を採決します。
本件を報告どおり承認することに異議はありませんか。

(“異議なし”の声あり)

- 委員長(小川修一君) : 異議なしと認めます。よって、本件は、報告どおり承認されました。
- 委員長(小川修一君) : 次に、日程第4、報告第4号「箕面市教育委員会会議録の承認を求める件」を議題とします。議案の朗読を省略し、提案理由を教育推進部総務次長に求めます。
- 教育推進部総務次長(稲野公一君) : 本件は、去る1月13日に開催された平成21年第1回箕面市教育委員会定例会の会議録を作成したので、箕面市教育委員会会議規則第4条の規定により提案するものです。
- 委員長(小川修一君) : この件に関して、質問、意見はありませんか。
- 委員長(小川修一君) : ないようですので、報告第4号を採決します。
本件を報告どおり承認することに異議はありませんか。

(“異議なし”の声あり)

- 委員長(小川修一君) : 異議なしと認めます。よって、本件は報告どおり承認されました。
- 委員長(小川修一君) : 次に日程第5、「教育長職務代理者の報告」を議題とします。教育長職務代理者 教育次長に報告を求めます。
- 教育次長(重松剛君) : (議案書35頁により報告)

平成20年度大阪府都市教育長協議会1月定例会について

1月16日に開催され、来年度の事業予定と今年度の歳入歳出決算の中間報告がありました。情報交換として、摂津市教育委員会の教師の人材育成の取組について、報告がありました。

平成20年度第2回教職員人事対策連絡協議会について

平成20年度第2回豊能地区人事協議会について

この二つの会議は、府教育委員会での説明か、豊能地区での説明かの違いはありますが、内容は同じものです。教職員人事の現在の状況や、採用の過不足の問題などが議題となりました。まだ、はっきり決まったわけではありませんが、箕面市への小学校の新任教諭が20人、新任養護教諭が2人となる予定で、中学校については、来週にわかりませんが、合計約30人の新任教諭が箕面市に配属される予定です。新任の中には、講師を長く経験して、年齢は30歳、40歳ですが、新任という方もあります。

平成 20 年度豊能地区教育長協議会管外視察研修について

箕面市が会長市として、豊中市、池田市、豊能町、能勢町の教育長や事務局で、1 月 30 日に、神戸市総合教育センターを視察しました。総合教育センターの職員から、「分かる授業推進プラン」と、「小学校における英語活動」について、説明をいただきました。

教育委員会委員と保護者等との意見交換会について

2 月 6 日から開催しており、最初にメイプルホール小ホールで開催されましたが、アンケートによれば、「よかった」という結果が多くありました。今後、12 日に西南図書館、17 日にとどろみの森学園、24 日に東生涯学習センターで開催する予定です。

教育推進部の行事について

1 月 18 日に「わくわくスタート～もうすぐ 1 年生だね～」をグリーンホール大ホールで開催し、432 人の参加をいただきました。公立の保育所、幼稚園、小学校の先生方が、今度入学する小学校 1 年生の子どもや保護者に対して、学校での生活の 1 日の様子をリアルにわかりやすく、寸劇にして紹介してくれました。

子ども部の行事について

1 月 7 日の保育研究報告会や 8 日の保育内容研修など、保育士に対する研修がありました。

生涯学習部の行事について

1 月 12 日に平成 20 年度箕面市成人祭について、50 パーセントを少し切るぐらいの参加率があり、昨年度と同様、抽選会などあり、賑やかに開催されました。

27 日の第 2 回箕面森町妙見山麓マラソン大会実行委員会については、今年度から、豊能町と箕面市合同で開催し、とどろみの森学園を出発し、豊能町の方に抜けてゴールするコースとなっており、府の補助も受けて行います。大会は、2 月 28 日に開催します。

- 委員長（小川修一君）：この報告に関して、何か質問、意見等はありませんか。
- 委員（坂口一美君）：今回、新任の先生が 30 名ほど配置されるのですが、逆に、退職される先生はどのぐらいいらっしゃるのか。また、人事交流でどのぐらいの先生方が来られるのか、教えてください。
- 教職員課長（松山隆志君）：退職者は、小学校は 12 名、中学校は 4 名となっています。他市との人事交流については、まだこれからで、現在調整中です。
- 委員長（小川修一君）：他に、ないようですので、各委員から教育行

政にかかることで何かありませんか。

- 委員長（小川修一君）： ないようですので、事務局から「その他、教育行政に係る報告」があれば、申出を受けますが、いかがですか。
- 委員長（小川修一君）： ないようですので、本日の会議は、全て終了し、付議された案件、議案１件、報告２件はすべて議了しました。
- 委員長（小川修一君）： それでは、意見交換の時間とします。テーマとしては、保育所や幼稚園の子ども、児童・生徒の体力向上とします。箕面市の子どもたちの体力や運動能力についての現状把握や、これまでの学校での取組、取組から生まれてきた成果や課題を含めて、理解を深めておきたいと思います。子どもたちの体力づくりに向けて、一体何が必要なのか、いろいろと併せて考えていくことが、ポイントになるかと思っています。きっかけとしては、１月２１日に文部科学省が、「平成２０年度全国体力・運動能力、運動習慣調査」の結果を発表したことです。子どもの体力がピークだったとされる１９８５年当時の抽出調査時の成績と比べ、ほとんどの種目で力が及ばなかったと伝えられています。そのようなことも踏まえた上で、これから子どもたちの体力づくり、体力向上に目を向けなければならない状況に立ち至っていることで、認識は共通していると思うので、意見交換を行いたいと思います。まずは、子どもたちの体力や運動能力を把握するため、調査が行われてきましたが、過去に行われてきた調査などについて、把握している範囲で、説明してください。
- 学校教育課長（中村香君）： 「体力・運動能力調査」が初めて行われたのは、昭和３９年、東京オリンピックの年からでした。この調査は、国民の体力・運動能力の現状を明らかにし、体育・スポーツ活動の指導と行政上の基礎資料として活用するために、行われてきたものです。対象は、６歳、小学校１年生から５９歳までを対象としていました。平成１１年度には、この調査の対象が６歳から７９歳に拡大されました。これは、平均寿命が伸びてきたこと、国民の体位が変わってきたこと、また、スポーツ医学・科学が進歩したことにより、年齢の高い方でも、小学１年生の子どもと同じテスト、同じ調査項目で、測れるような形とし、だれもが、共通に受けられる８種目を制定して、体力、運動能力を調べるようになりました。これが、いわゆる「新体力テスト」と言われるもので、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、２０メートルシャ

トルラン、50メートル走、立ち幅跳び、ボール投げの8種目による調査を行うようになりました。これは、調査数は、全体の約0.2パーセントを対象としています。大阪府でも、昭和39年以来、ずっと同じく、体力調査を行っています。毎年、小・中学校、高等学校あわせて、100校の抽出校によって実施されていますが、そのうち、小・中・高それぞれ3校ずつが国のデータとしてあげられています。もちろん、箕面市も府の調査に、毎年参加しています。ただ、子どもの体力がずっと、低下してきている現状に対して、この0.2パーセントの抽出では、詳しく分析できないとして、より詳しく分析し、体力の向上に役立てるために、平成20年度から、文部科学省が全国の小学校5年生、中学校2年生を対象に、「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を実施しました。これが、今年1月に報告されたものです。この調査の特徴は、実技項目としては、新体力テストと同じものですが、子どもたちに生活習慣や食習慣、運動習慣について尋ねる質問紙調査、加えて学校の取組を聞く、学校に対する質問紙調査がありました。本市では、調査にかかわらず、全中学校で、新体力テストを全学年で実施しています。小学校でも、それぞれ50メートル走やソフトボール投げなどで子どもの体力、運動能力の把握に努めているところです。

- 委員（白石裕君）：昔から、教育の目的は「知・徳・体」と言われています。知能の分については、政策をとられてきたのですが、日本の教育の中で「徳」と「体」、特に、体力の方がどうもお粗末だったのではないかと思います。学校教育の中でも、少し隅に追いやられてきました。ところが、実際には、「知・徳・体」は、お互いに関連しているものですから、その意味では、体力の問題は本当に大事な問題です。私が、はっきり覚えているのが、7年前に、ある研究者の方が、データを公表されているのを聞いていたのですが、日本の子どもの場合は、学力以上に、体力が非常に大きな問題であると言われて、驚いたことを覚えているのですが、そのような警告があるにもかかわらず、調査を行っても、具体的に何かをすることを、国のレベルで、積極的に行ってきたかということ、疑問点があります。その意味では、猶予がならない時期に来ているのではないかと思います。私も、箕面市の小学校、中学校の運動会を教育委員会委員として見せていただきますが、見た限りはわかりませんが、実際に、準備体操などもしっかりできない子が多かったなど、そのような

子どもたちを見るにつけて、やはり、国はともかくとして、我々なりに、体力をつけて、「知」と「徳」と合わせて向上させていくことが大事だと改めて感じています。そこで、質問ですが、箕面市の子どもたちの体力・運動能力の現状や課題について、説明してください。

- 学校教育課長（中村香君）： 体力・運動能力については、新体力テストの結果、過去３年間のデータを平均すると、全国とほぼ同じレベルになります。ただ、先程から申し上げていますように、全国と同じレベルということは、だんだん体力的に下がってきているという現状の中で、全国と同じレベルであるということなので、課題は大きいのは、おっしゃるとおりです。特に、全学年、２０メートルシャトルラン、これは、往復運動なので持久力を見る項目です。全身の持久力や反復横跳びなどの俊敏性、瞬発力に課題があると言えます。一方で、５０メートル走やボール投げなどの種目については、良い成績を上げています。ただ、日常的によく運動している子どもたちは多いです。運動が好きな子どもの割合も高く、自分は運動が得意、あるいは、どちらかと言えば、得意であると思っている子どもたちが、男女とも多い結果が出ています。基本的に、箕面の子どもたちは、よく体を動かして、健康的に生活している子どもが多いことがわかります。しかし、小学校女子では、調査結果から見ても、全国平均からやや低い傾向があったり、１日の運動時間が３０分未満の子どもが多かったり、平日、スポーツ少年団等で運動する子が少ない、土曜日・日曜日に運動している回数が少なかったり、運動しない理由として、「あまりしたいと思わない」「興味がない」と答えている子どももいます。中学校女子は、運動が好きな子どもは多いし、運動が得意、やや得意と思っている子どもも多い。一方で、体力に自信がないと答えている子どもの割合が高い結果が出ました。また、運動部への所属も男子と比べて、低くなっています。

- 委員（白石裕君）： やはり、できるところからやっていくことが大事だと思います。調査の結果はわかったが、何をどうやっていくかが、次の非常に大きな問題だと思うのですが。体力、運動能力の向上のために、箕面市としては、学校中心になるかと思うのですが、どのような取組を行ってきたのですか。

- 学校教育課長（中村香君）： 中学校は、７校全部で１年生から３年生を対象に新体力テストを実施しています。この結果を、箕面市教育研究

会中学校体育部会で、今年度は、１年生の結果を分析したのですが、それぞれのどのような課題があるのか、運動部、例えば、バスケット部に所属している子は、このような特徴や課題があるなど、分析をしました。来年度は、追跡調査として、２年生、３年生とどのように変化していくかを見るような取組を進めていきます。その中で、中学校１年生は、筋力、俊敏性に課題がある。持久力が弱いことがわかった中で、それぞれの体育の時間の準備運動に、サーキットトレーニングで、弱いところを補強するためのトレーニングを入れたり、各クラブに対しても、部活動の準備運動や整理運動の中で、課題のあるところに対しての対処方法などを提言しながら、体力の向上に取り組んでいます。また、新体力テストの結果を全国や府と比較して、子どもたちに返して、一人ひとりが自己目標を設定して、授業や部活動、毎日の生活の中で行えるよう、取り組んでいる中学校もあります。各小・中学校とも、児童・生徒の体力の実態を踏まえ、徒歩遠足や球技大会などの学校行事や、運動会、体育大会、マラソン大会などの体育的行事において、さまざまな体力向上につながる効果的な教育活動を工夫し、進めています。全市的に課題である持久力、敏捷性の向上につなげるため、また、体力づくりのきっかけづくりとするために、平成１６年度に小学校全学級に競技用の長なわを配布しました。その取組の成果を発表する場として、体育の日に開催される市民スポーツフェスティバルの中で、長なわとび大会を実施しています。今年度も、子どもたち、保護者、指導者など、合計で２００名近くの参加者がありました。この大会は、子どもの体力の向上と同時に学級や学年の仲間づくりにも効果があらわれています。今後とも学校・家庭・地域と連携した活動の展開をめざすなど、その充実に努めていきたいと考えています。非常に活用されて、擦り切れてしまった長なわも多く、来年度予算で、長なわ１１８本の補充を要求しています。

- 委員（福井聖子君）：２００２年から学校制度の改革で土曜日が全部休みになったのですが、その前後で、体育の時間数の増減や体力の違いが全国的な流れとしてあったかについては、いかがですか。
- 学校教育課長（中村香君）：具体的な数字データを持ち合わせていないので、後日報告します。体育の授業時間については、平成２３年度から実施される新指導要領の中で、小学校１年生から４年生までの体育の時間数が年間１５時間程度増えることになっています。

- 委員（坂口一美君）：部活動に関して、子どもたちの話を聞くと、入りたい部活動がないとか、先生方の配置や顧問の先生の問題など、体力づくりとは、また別の課題もあると思うのですが、例えば、学校の取組の中で、専門的なコーチなど外部人材をどのように活用しているか、現在の状況でいいので、教えてください。
- 学校教育課長（中村香君）：部活動の外部人材活用については、市の予算で部活動指導者派遣事業として、専門的な技術力や指導力を持つ人材を派遣し、部活動の指導方法や指導内容の充実に向けての支援を行っています。箕面市では中学校7校分の運動部に対して年間3,200時間の派遣を行っていますが、実質は、この倍以上のボランティアに来ていただいている状態です。平成20年度は中学校7校で、49名の方が登録されていて、部活動の指導をいただいています。
- 委員（坂口一美君）：部活動に関しては、個人の自由意思で入るものですが、小学校のクラブ活動の状況はどうなっていますか。
- 学校教育課長（中村香君）：小学校のクラブ活動についても、卓球やバスケットボールなどそれぞれ、地域の方で得意な方がいらっしゃるのので、そのような地域人材を積極的に活用して、活動を行っています。併せて、小学校のことについてですが、水泳の指導においては、例えば、学力向上ボランティア事業を活用して、大学生でスイミングスクールのコーチをしている方などに指導の補助をお願いしています。また、特色ある学校づくり事業の一環として、スイミングスクールと連携しての水泳指導を行う工夫を行い、子どもたちの体力の向上に役立てています。
- 委員（坂口一美君）：今後、体育の授業の中での質向上として、どのような取組を行いますか。
- 学校教育課長（中村香君）：体育の授業だけでなく、いろいろな授業の技術、教職員の技能を高めていくためには、基本的には、大阪府教育センターの実技研修や箕面市教育センターの研修を関係教職員に周知しながら、箕面市教育研究会などにおける月1回の授業研究や実技講習会を通して、指導の技術の充実に努めているところですが、来年度から、学校教育課として、なわ跳びを活用した体力づくりの研究と研修を箕面市教育研究会小学校体育部会の方々と連携して取り組んでいきたいと考えています。具体的にはプロジェクトチームを立ち上げ、指導事例集を作成し、その事例に沿った自主研修会や各校に持ち帰っての伝達

講習会などの取組を重ねていきたいと考えています。一方で、本市においては、小中一貫教育を進めています。その柱の一つに、小学校高学年における教科担任制の推進をあげています。このことも、体育の授業の向上につながると考えています。例えば、中学校は、専門の先生が体育を教えています。小学校はいろいろな先生が教えます。その中で、お互いに得意な分野を持ち寄って、教科担任をする形で授業の質をあげていくことも一つかと考えています。

- 委員（坂口一美君）： 学校教育の体力向上の中で、先生方の意識をどこかで意識調査されたことはありますか。体力の向上を考えたとき、体育の授業だけではないと私は思っています。学校生活の中で、いろいろとはぐくんでいくものだと思いますので、先生方の意識についてもどのようなになっているのかをお聞きしたい。というのは、3年ほど前に大阪府が主催する「子どもジャンプアップ大会」で、北小学校の子どもが府で優勝しました。数を跳べばいいという問題ではありませんが、あのとき北小学校の子どもが1,200回ほど大なわ跳びで跳んだことは、すごい記録で、その記録が今年破られたのですが、あの時、保護者も先生方も子どもたちも一体となって大会に臨んでいました。たぶん、体力がない子も、ある子も、一つのクラスで全員で跳んでいました。それを見ていたときに、非常に感動しました。また、スポーツや体力づくりを通して、先生と子どもたち、また、友だち同士がつながっていく、非常にいいものを見せていただいたと思っています。ですから、学校教育の中での体力づくりという一面だけでなく、総合的な教育の部分が非常に大事だと思うので、その辺の先生方の意識について、お聞きしたい。北小学校の場合は、たまたま、一人の男性の先生が担任で、クラスで参加するとして、体育の授業以外に休み時間にかなり練習したり、跳べる子が跳べない子に教えるなどして、あれだけの結果が出たのだと思うのですが、そのあたりはいかがですか。

- 学校教育課長（中村香君）： おっしゃるとおり、体育の授業だけでなく、遊びや放課後のいろいろな活動を通して、子どもたちの体力づくりが行われていることは、共通で認識していることです。ただ、意識調査としての調査は行っていませんが、基本的に、白石委員がおっしゃられたとおり、学習面だけではなく、「知・徳・体」バランスのとれた教育を行うことは、非常に大事なものであると認識しています。基本的なこ

とのバランスのとれた上に立って、ある教員は、なわ跳びを通じてクラスを盛り上げていこうとされる場合もあれば、総合的な学習の取組としてクラスで取り組んでいこうとされる場合もありますので、どのクラスもなわ跳びとはいきませんが、それぞれの先生が、それぞれの取組を進めています。

- 委員（福井聖子君）：体力づくりには、学校だけでなく、遊びの要素も欠かせないと思いますが、遊びの現状と課題、解決策について何かありますか。
- 学校教育課長（中村香君）：やはり、生活が便利になり、子どもたちが日常的に体を動かす機会が少なくなり、ゲームなどが増えています。また、スポーツ、外遊びに必要な時間、空間、仲間が少なくなってきたことなどが、長期に亘る体力低下の要因の一つとして考えられると思います。箕面市の小学校においては、放課後の校庭開放事業が毎日、行われていること、また、時間割を工夫して、それまでの20分休憩を30分休憩とするなど、子どもたちがのびのびと外で遊びやすいような環境づくりを進めてきました。その結果、他市から転勤してこられた教職員の方から、子どもたちの様子を見て、「箕面の子はよく外で遊んでいる」との感想をいただいています。また、「長なわ跳び大会」を学校独自で実施している小学校もあります。ただ、高学年になると、どうしても子どもたちが、外で遊ぶ機会が減ります。特に、塾や習い事の関係で、放課後に残って遊ぶ子どもが少なくなることもあります。そのような中で、子どもたちにとって、「外でみんなで遊ぶことは楽しい」と思えるような体験を仕掛けていくことも必要であると考えています。教育センターでは、遊びを通じた集団づくりの研修、遊びの方法や、取り組んだ結果で、子どもたちが盛り上がり、まとまっていったことなどを研修で学んでいくことも進めていきたいと考えています。また、箕面は、地域の皆さんのご協力の下、地域運動会、こども会のドッジボール大会、ソフトボール大会、放課後の子どもの居場所づくりの取組など、様々な形で、子どもたちが体を動かして、遊ぶ機会が提供されています。これらの取組に対して、子どもたちがもっと、もっと、参加しようと思うように、学校からの働きかけを工夫していくことも必要であると考えています。
- 委員長（小川修一君）：事務局として、この問題については、どのように考え、今後のどのように取組を進めていくつもりかを聞かせてもら

いたいのですが。

- 教育推進部長（森井國央君）：子どもたちの体力・運動能力の向上については、小学校・中学校だけで達成できるものではないと思っています。幼児期からの取組や放課後の遊び場、あるいは、ジュニアスポーツの推進など、子ども部や生涯学習部と、取組を連携することが大事だと思っていますので、教育委員会総体として取り組んでいく必要があると思っています。
- 委員長（小川修一君）：それぞれ委員としても考えがあり、今後の体力向上については、やはり課題があるとの共通認識があります。いろいろなことをクリアしながら、一定の提言が必要ではないかとも思いますが、具体的に、学校現場でどのような取組があるか、それを保護者がどのような感想があるかも聞き出していく必要があるかと思っています。先程、学校教育課長がスイミングスクールとの連携の話をしていましたが、保護者の方が、スイミングスクールに子どもさんを行かせて、体力増強を自ら図っておられますが、学校では、ギャップがでてくることもあります。子どもは、場合によっては、物足りないと感じる授業であったり、逆についていけないギャップがあったりと、そのようなことも、学校が抱えている課題としてあると思います。それは、ほんの一例ですが、他にも学校現場で、子どもたちの体力増強を考えたときの条件整備が必要になってくると思います。今の時期、各小学校でマラソン大会に取り組まれています、学校によって、条件がそれぞれ違います。例えば、中小学校では、学校の周辺を走れないので、どうしても運動場の中だけでぐるぐる回るなど、そうせざるを得ない条件もあります。他にも、様々な条件の中で、子どもたちの体力向上を図っていくことを考えていかなければならないことだと思います。そのようなことも含めて、意見交換をしましたが、これは、ほんの入口、端緒であり、これからこのことを委員同士で意見交換しながら、方向性を探り、場合によっては、それらを提言としてまとめてみたいと私は考えています。その際、該当する部署がどこなのかを考えることができないことがあろうかと思っています。場合によっては、条件整備のための予算を求めなければならないところも出てくるでしょう。教育委員会事務局の中でも、教育推進部、子ども部、生涯学習部にまたがって考えていかなければならない面もありますし、場合によっては、市長事務部局にも語りかけなければならないこともあ

ろうかと思います。先程から出ている「知・徳・体」のうちの重要な一部門であるという認識は誰しも否定することはできないと思います。そのような意味で、委員会として、委員だけではなく、事務局も含めて、今後も、体力向上について、例えば、プロジェクトを組むなり、あるいは、学校現場の意向を聞くことも当然必要ですし、条件整備に当たっては、年齢別にいろいろなことが考えられたりします。それらをこれからまとめたいと思うので、その際の協力を事務局でお願いしたいと思います。これを提言としてまとめられればと私は考えています。

- 委員長（小川修一君）： これをもちまして、平成21年第2回箕面市教育委員会定例会を閉会とします。

（午後3時58分閉会）

以上のとおり会議の次第を記し、相違ないことをみとめたので、ここに署名する。

箕面市教育委員会

委員長

小川 修一

委員

白石 裕